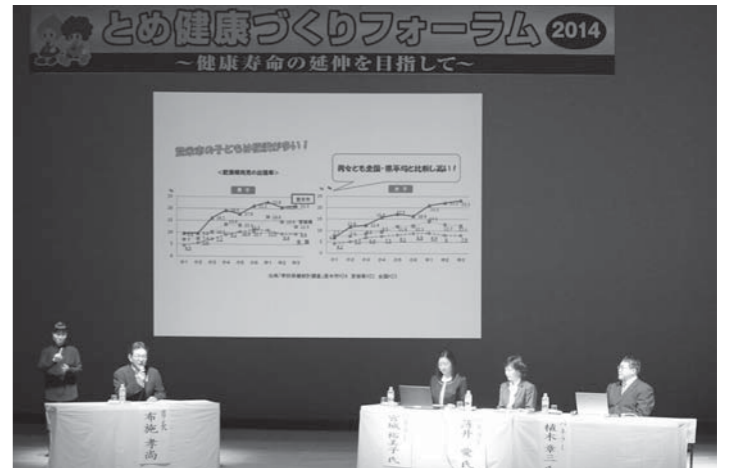


健康寿命を延ばそう

健康づくりフォーラム開催



パネルディスカッションでは、各部門の専門家から本市の課題と健康寿命延伸のための方策をご提言いただきました

市では「とめ健康づくりフォーラム2014」を5月24日に開催しました。会場の登米祝祭劇場には、



「脳トレ」でおなじみの川島教授は「年齢を重ねると体力は落ちてくるが、脳は簡単なトレーニングで鍛えることができます」と強調。「単純計算や音読だけでも脳は活性化します」と話しました

がん予防や健康寿命延伸など八つの展示・体験コーナーが開設。小ホールの脳年齢や血管年齢、骨密度などの測定コーナーには大勢の人が並び、自身の健康状態をチェックしていました。

大ホールでは、東北大加齢医学研究所の川島隆太教授が「脳を鍛えて健やかに生きる」をテーマに基調講演。その後、布施孝尚市長をコーディネーターに「登米市の健康寿命の延伸を目指して」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

災害時にペット保護

獣医師会仙北支部と協定

市では、市内の獣医師らで組織する県獣医師会仙北支部と災害時応援協定を結びました。協定では、地震や大雨などの大規模災害が発生した場合、支部が市の要請に基づきペットの保護に必要な資材や薬品を提供したり、健康管理を行ったりします。

開かれた締結式では、布施孝尚市長と日下勝彦支部長が協定書に署名。布施市長は「東日本大震災ではペットの保護が課題になりました。今回、家族の一員とも言えるペットの保護協定を締結できたことは、被災者の心のケアにもつながり大変ありがたい」と述べました。



ペットの災害時応援協定を結んだ日下支部長（右から2人目）と布施市長（同3人目）

調査時も交通安全で

統計調査員協議会で研修

市内の統計調査員で組織する市統計調査員協議会（米倉啓会長）では5月26日、会員を対象にした全体研修会を開催しました。

追町内のホテルで開かれた研修会には会員約100人が出席。佐沼警察署の菅原充交通課長が「地域と自分を知ることから始める交通安全」を

テーマに、県内で高齢者の事故が増えている状況などを説明し、注意を呼び掛けました。その後、出席した統計調査員は、歩行と自転車シミュレーターをそれぞれ体験。画面を見ながら歩いたり自転車を運転したりして、交通事故に遭わないためのポイントを確認していました。



シミュレーターの体験で、交通事故に遭わないための注意ポイントを確認

市民参加の森づくり

市有林に720本を植樹

市と県では5月25日、「市民参加の新たな森林づくり春・植樹祭」を津山町大萱沢地区の市有林で実施しました。

当日は募集が集まった一般参加者のほか、横山小みどりの少年団や林業関係者など約200人が参加。0・36畝の敷地に、ヤマザクラやクスギ、コナラなど720本の広

葉樹の苗木を、一本一本植えていきました。

植樹は、県の「みやぎ環境交付金」を活用し、毎年、春と秋に実施しているものです。平成21年から行われてきた大萱沢地区への植樹も今回で終了。これまで2・5畝に広葉樹など約5000本を植樹しました。



クワを使って穴を掘り、広葉樹の苗木を植えていく参加者

県警本部長から賛辞

交通事故死事故ゼロ6カ月

市では、5月1日で交通事故死事故ゼロ6カ月を達成。県警本部長から「賛辞」が贈られました。

5月7日に市役所南方庁舎で行われた伝達式には市や交通安全団体、警察などから約20人が出席。県警の齋藤利和交通部長から布施孝尚市長に賛辞が手渡されました。



市内での交通事故死事故ゼロ6カ月を達成し、喜ぶ関係者

長沼ダム完成を祝う

式典に約500人が出席



関係者がくす玉を割り、長沼ダムの完成を祝いました

迫川の洪水対策として県が昭和46年に事業着手した長沼ダムが完成し、5月31日に竣工式が行われました。

迫町北方の長沼フットピア公園で開かれた竣工式には県と本市、栗原市などから関係者約500人が出席。地権者や功労者に感謝状が贈呈されたほか、「恵水悠久」と刻ま

れた記念碑の除幕式を行うなどして完成を祝いました。計画から43年かけ完成した長沼ダム。迫川流域の洪水調節や用水への補給、ポット競技コースとして湖面を利用する多目的ダムとなります。ダムの総貯水容量は3180立方メートル。総事業費は約834億円です。